

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化

③キャリアパス形成を支援するための体制整備や、社会的・職業的自立に向けた 情報提供

●名古屋大学多元数理科学研究科多元数理科学専攻

「学生プロジェクトを支援する数理科学教育」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

企業から講師を招いての集中講義の実施や、本研究科 OB との交流を図る企業研究セミナーの開催を行った。これらは学部生や修士課程の学生には大きな成果を上げていると考えるが、後期課程の学生の参加は期待したものではなかった。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

後期課程の学生の希望進路は大学においての研究職が大半であり、このことが広く企業等も視野に入れたキャリアパス形成のネックであった。このことが後期課程の志願者の大きな増加を阻んでいると考える。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

学位取得後の進路の問題は社会的な問題であり研究科だけの取り組みには限界があるが、企業人、教員、学生との間の情報交換をより進めることが大切である
と考える。